

マーケット概況（2025年10月）

10月の債券相場は、米国政府機関の一部閉鎖への警戒から買いが先行し、10年379回債は前月末比-0.5bpの1.640%で取引を開始した。2日の10年債入札は低調な結果となったが、自民党総裁選を前に財政健全派とされる小泉氏優勢との見方から堅調に推移した。4日に行われた総裁選では高市氏が総裁に選出され、追加利上げが遠のくとの見方から中期債は買い優勢となった一方、財政拡張懸念から超長期債は大きく売られ、6日に30年87回債は発行開始以来最高利回りとなる3.290%を付けた。7日の30年債入札を無難に通過し超長期債相場は下げ止まったが、9日の5年債入札が低調な結果になると軟調地合いは続き、10日に10年380回債の利回りは2008年7月以来となる1.700%まで上昇した。米国地銀の信用リスク懸念から米国10年債利回りが4%割れとなると相場は反発し、10年380回債の利回りは一時1.615%まで低下した。しかし、連立政権樹立で高市氏の首相指名が決定したことで大幅株高となり、再び売りが優勢となった。29日のFOMCで追加利下げが決定したが、パウエル議長が12月の利下げに慎重な姿勢を示し米国債相場が反落すると、5年181回債の利回りは2008年7月以来となる1.245%まで上昇した。30日の日銀金融政策決定会合で政策金利の据え置きが発表されると下げ幅をやや縮小し、結局10年380回債は1.655%で今月の取引を終えた。

<短国市場>

10月の短国市場は、日銀の10月利上げへの警戒感から3日の3M1335は前回債より4.0bp上昇の最高落札利回り0.5335%と年初最高金利の更新となったが、高市氏の自民党総裁選出を受け、利上げ思惑は後退した。その結果、9日の6M1336は0.6034%、16日の1Y1338は0.7505%と前回債よりは金利上昇したものの、無難な結果として受け止められた。3Mゾーンは需給良好で10日の3M1337は0.4954%、17日の3M1339は0.4680%、24日の3M1340は0.5016%と概ね事前予想よりもしつかりの結果となり、入札後さらに強く買い進まれた。日銀金融政策決定会合翌日の31日の3M1341は、利上げ思惑のさらなる後退感から0.4747%と前回債よりも金利低下し、後場は0.440%まで取引された。

<一般債市場>

10月の定例地方債は、5年債・10年債ともに前月比横ばいとなり、5年債が国債カーブ対比+11bp、10年債が国債カーブ対比+12bpの条件決定となった。10年定例政保債についても前月比横ばいの国債カーブ対比+10bpの要件決定となり、政保債・地方債のスプレッドは前月比横ばいの2bpが継続した。入札物の大阪府債は5年債・10年債ともに前月対比タイトニングとなっており、地方債は良好な需給環境が継続した。10月の事業会社債の発行額は、三井住友フィナンシャルグループ合計1,250億円やみずほフィナンシャルグループ合計1,500億円の起債が寄与し、前年同月比12%増加の1兆5,867億円となった。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#380	1.640(2日)	1.615(17日)	1.700(10日)	1.655(31日)
#379	1.640(1日)	1.610(17日)	1.690(10日)	1.645(31日)
#369	1.470(1日)	1.405(14日)	1.490(8日)	1.440(30日)
#180-#181(5Y)	1.225(1日)	1.170(6日)	1.245(30日)	1.220(31日)
#193-#194(20Y)	2.625(1日)	2.570(29日)	2.740(7日)	2.585(31日)
#1330-#1336 TDB(6M)	0.605(9日)	0.565(16日)	0.605(9日)	0.565(16日)
#1334-#1341 TDB(3M)	0.500(3日)	0.440(14日)	0.500(3日)	0.440(31日)